

さんないまるやま つうしん

三内丸山通信

第 71 号

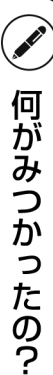
令和元年12月9日

三内丸山遺跡センター
〒038-0031 青森市三内字丸山 305
TEL (017) 781-6078
FAX (017) 781-6103
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp/>

第43次発掘調査終了！

今年度の第43次発掘調査は、令和元年5月13日から10月25日まで遺跡北端部を調査しました。遺物包含層（土器や石器などの遺物が含まれる層）と遺構の分布や、昨年度の調査で確認された沢地形と付近の遺構との関係などについて調べました。

今年度の調査成果については令和2年1月18日からの展示と、3月14日（土）の遺跡報告会で発表しますので、ぜひお越しください。



何がみつかったの？

大型掘立柱建物跡を覆う大ドームの北側では、多くの柱穴がみつかりました。そのさらに北側では、貯蔵のための穴（フラスコ状土坑）や、焼け落ちて内部に焼土や炭化物が残る竪穴建物跡が確認されました。炭化物の中には、ストロー状の植物が並んだ状態で確認された箇所がありました。植物の種類や年代などを今後調べていく予定です。



【柱穴検出状況】



縄文時代の土木工事？

今回の調査では、柱穴などの遺構が多くみつかった地区一帯で、地面の土が削られている様子が確認できました。縄文時代の人々は、地面を削ってならしたところに柱穴などを掘り、これらの作業で出た土を北側の斜面に捨てたり盛ったりしたと考えられます。また、土を捨てるのと同じ時に土器や石器なども一緒に捨てたと考えられます。



溝状遺構が西へ広がる！

昨年度の調査で確認された2条の溝状遺構について、東側と西側に調査区を設定して、溝状遺構の続きを調べました。東側では、平安時代以降に溝状遺構が削られていることが分かりました。また、西側にさらに続くことも分かりました。来年度の調査では、溝状遺構がどこまで続くのかについて、さらに西側を調査する予定です。



【遺物包含層堆積状況】

冬季企画展

「三内丸山ムラが
一番おもしろかったころ」

同時開催

「さんまる速報展！
2019」

縄文時代前期～中期の1700年もの長きにわたって営まれた三内丸山ムラ。

中期中ごろ、ムラでは100棟を超える竪穴建物が建ち並び、集落の規模が一番大きくなります。

そのころには、三内丸山ムラの周辺にも次々に大きなムラがあらわれ、この地域が拠点集落の集まりのようになってきます。

本展は、三内丸山ムラとその周辺が最も栄えた時期に焦点をあてて、具体的な姿に迫ります。



【三内丸山遺跡の発掘調査の様子】

【会期】

令和2年1月18日（土）
～3月15日（日）
休館日…1月27日（月）、
2月25日（火）

観覧時間…9時～17時
（最終入館16時30分）

【観覧料】

遺跡を含む常設展の入場料で観覧できます。

【関連イベント】

・土偶づくり体験
2月1日（土）
13時30分～15時30分
・三内丸山遺跡報告会
3月14日（土）
13時30分～15時30分

・ギャラリートーク
会期中の土日祝
13時30分～30分程度

※詳細はチラシやホームページをご覧ください。



【竪穴建物跡遺物出土状況】